

消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事例概要について】

.....

1. 事故・ヒヤリハットの別	事故
2. 体験した事例の名称	建物火災（住宅）の防ぎょ活動で筒先進入をしようとした際の転落事故
3. 体験した事例の中心的要素	火災が発生している建物の敷地内へG L差が約1 2 0 c mある隣地（畑）から上がろうと、ブロック塀（4段の8 0 c m）に右手を掛け体重を乗せたところ、ブロック塀（4段ブロックの一片のみ）と一緒に畑に転落したもので、高さが1 2 0 c m程度のため梯子を使用しなくても上がれると判断し、ブロック塀が倒れてくるとは思わなかった危険性の認識の甘さが当事故事例の中心的な要因である。
4. 体験した事例の原因・理由	・危険性認識度の甘さ ・安全管理の不徹底（筒先進入のため他の隊員が2名いた） ・資機材の未使用（梯子）

【体験した事例の直接的な原因について】

.....

1. 体験した事例の直接的な原因	行動の意志決定に問題があった。
------------------	-----------------

【体験した事例について】

.....

1. 発生日時	平成 18 年 12 月 5 日 午後 1 時頃
2. 発生した当時の天候	晴
3. 発生した活動現場	屋外：住宅敷地周囲のブロック塀
4. 体験した事例の種類	回答者が、自分自身で負傷した。
5. 事故の程度（ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度）	軽傷の怪我をしていた（させていた）だろう。
6. どのようなことが起きたのか（起きそうになったのか）	墜落・転落、
7. 事例体験時の活動	火災、現場活動中期、 [木造建物]
8. （7の活動中） どのような作業中に発生したか	進入、
9. 同様の体験は、これまでにどの 程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した。

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）

○当事者A	年齢[21]歳、勤続年数[2]年、現場経験年数[1]年、階級[消防士]、同様の活動 []、任務 [隊員]
○当事者B	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[]年、階級[]、同様の活動 []、任務 []
○当事者C	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[]年、階級[]、同様の活動 []、任務 []
その他 (当事者が4人以上の場合)	

11. 事例発生の経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過1	A	筒先進入するためブロック塀に右手を掛け、体重を乗せた瞬間、ブロック塀（1列 4段80cm）と一緒に約120cm下の隣地（畑）に転落したもの。	
経過2			
経過3			
経過4			
経過5			
経過6			
経過7			
経過8			
経過9			
経過10			

【その事例発生時の状況について】

.....

○事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思うか？

ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

危険情報を把握、予見できなかった。足元の安全が確保できていなかった。指揮者が適切に指示しなかった。後方からの監視の目が行き届いていなかった。他隊(員)との連携活動がうまくいかなかった。他隊(員)から適切な注意を受けられなかった。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	はい
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	はい

d. 心身の不調があった

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった（寒かった）。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	はい
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	はい
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	はい
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

いいえ	
-----	--

【事故発生後の取り組みについて】

・・・・・・・・・・・・・・・・

○注意力欠如、焦り等の対策について

事故現場付近には、当人を含め３人の隊員がいたが、誰もブロック塀が倒れるとは予測できなかった。今回の事故を通して、潜在危険の検証、認識、さらに災害現場での危険要素の確認、予測を習得するための訓練、研修会を署内にて実施する。

○装備・資機材の対策について

○活動環境の対策について

隊員の安全確保を優先し、諸資機材の有効活用を徹底する。

○指揮・情報伝達の対策について

災害現場で指揮隊や手あきの隊員が危険箇所の確認を行い、スピーディな情報伝達を推進する。

事故発生状況図

